

[交通アクセス]



- 大阪モノレール彩都線：『**阪大病院前**』下車
- JR東海道本線（京都線）：JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車
- 地下鉄御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車



[阪大病院ニュース]

阪大病院ニュースをwebで公開しています。

阪大病院ニュース

検索

 大阪大学医学部附属病院

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL. 06-6879-5111(代表)

阪大病院

検索

29-06



Osaka University Hospital Outline

大阪大学医学部附属病院 要覧



Live Locally, Grow Globally

2017



OSAKA UNIVERSITY



Contents

[目次]

理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務

02

高度で安全な医療、未来を拓く医療

03

病院長からのご挨拶

04

沿革

05

機構／職種別職員数／職員

07

資料

09

診療科別外来患者数／病棟フロア別入院患者数

資料

11

臨床検査件数／手術件数／画像検査患者数／輸血検査件数／処方枚数／病理業務件数／リハビリテーション実施単位数／地域別入院患者数／治験件数／移植件数／院内がん登録件数／入院、外来抗がん剤調製件数／ドクターヘリ出動件数／分娩件数／血液浄化療法施行件数

医療機関の承認・指定状況等

13

経理状況／未来医療の推進

14

構内建物配置図／階別配置図・病床数

15

トピックス(ジャパン インターナショナル ホスピタルズ推奨／地域医療連携システム稼働)

17

写真で見る大阪大学医学部附属病院

18

理念

大阪大学医学部附属病院は、
良質な医療を提供すると共に、
医療人の育成と医療の発展に貢献する。

[医の先進性を志して148年]

1869(明治2)年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。
阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。



緒方 洪庵

基本方針

■患者本位の安心・安全な全人的医療の提供

■高度先進医療・未来医療の開発・実践

■社会・地域医療への貢献

■豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

患者さんの権利

- 人として尊重された医療を受けることができます。
- 安全で質の高い医療を受けることができます。
- 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- 個人の情報は保護されています。

患者さんの責務

- 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
- 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。



●病院機能評価認定証
2016年1月に(公財)日本医療機能評価機構から最新基準(3rdG:Ver.1.1)に認定されました。



●外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)認定書
2016年3月に(一財)日本医療教育財団から認証されました。



●ISO15189認定証
2015年9月に(公財)日本適合性認定協会から認定承認を受けました。



●倫理審査委員会認定証
2015年3月に厚生労働省から認定を受けました。



高度で安全な医療、未来を拓く医療

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 超高齢化社会における課題を問題提起して解決できる人材の育成。
- 看護・医療技術領域の医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 未来医療開発部を軸に、臨床研究の拠点としての臨床研究支援体制の充実を図る。
- 臨床研究に関する倫理指針（統合指針）改訂等、臨床研究に関わる規制への対応。

【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制（インバウンド）と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制（アウトバウンド）、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育（国際医療研究・教育）を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

大阪大学医学部附属病院

病院長 野口 眞三郎



阪大病院は、個々の診療科が日本トップレベルの診療を実施するのみならず、他の大学附属病院には類を見ないほど緊密な診療科間の連携のもと、「最後の砦」として高度で安全な医療を提供し高い評価を得ています。今後も更に診療科間、及び、多職種間（医師とメディカルスタッフ）の連携の強化を図り、患者さんを中心としたチーム医療を推進し、「最後の砦」として一層の進化を遂げるよう努力します。また、今後予想される急激な社会・医療環境の変化に適応し、尚かつ、高度で安全な医療を継続的に提供し続けるためには、効率性にも十分配慮した医療を実践する必要があると考えています。

未来を拓く先進医療の開発も本院の重要な使命の一つです。長年に渡る先進医療開発のための取り組みが評価され、本院は、平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けました。基礎研究の成果をいち早くトランスレーショナルリサーチから臨床試験へ導出し実用化を図る基盤は、本院が全国でもトップレベルであります。臨床研究中核病院としてのアドバンテージを最大限に活用し、かつ、製薬企業との連携を更に強化して日本の臨床試験を先導したいと考えております。そして、願わくは、近い将来、一旦は大阪を去った製薬企業の本社が道修町に復帰し、大阪の復活の起爆剤になればと切に願っています。

また、本院の将来を担うのみならず日本全国で活躍し得る、優秀で患者さんから信頼される医療人（医師、看護師、薬剤師、医療技術者等）の育成にも尚一層前向きに取り組めます。さらに、病院事務職員とも常に情報共有・意思疎通を図り、健全な病院運営を図ります。

本院に勤務する多くの医師は、過酷な労働条件に関わらず全力で診療、教育、研究に日夜取り組んでいます。医師が大学で勤務する一番の理由は、高度医療の提供や先進医療の開発に取り組むたいとの向学心と向上心にあると思います。この医師として崇高なモチベーションに少しでも応えるべく、Academic Physician が満足して働ける（研究できる）環境整備にも尽力したいと考えています。

以上の大学病院としての使命を果たすべく職員一同、力を合わせて努力する所存です。
今後とも引き続き、皆様のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

1838(天保9)年	蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。
	
1869(明治2)年	新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱により大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王寺区上本町)に文部省直轄大坂病院(緒方一族主宰)を設置した。
1870(明治3)年	文部省は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。
1871(明治4)年	再び文部省直轄となった。
1872(明治5)年	文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が廃止された。
1873(明治6)年	2月 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設し、教授局を付設した。
1879(明治12)年	3月 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。
	
1880(明治13)年	3月 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府立大阪医学校を設立した。
1888(明治21)年	1月 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校名を大阪医学校と改称した。
1893(明治26)年	3月 大阪医学校産婆養成所が開設された。
1898(明治31)年	4月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。
1903(明治36)年	10月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称された。

1915(大正4)年	10月	府立大阪医科大学と改称した。
1919(大正8)年	11月	大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪医科大学となって病院もこれに準じた。
1924(大正13)年	10月	大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と改称した。(大阪市北区堂島浜通)
		
1931(昭和6)年	5月	勅令第67号により大阪帝国大学が創設され、大阪医科大学を移管して医学部と改称された。
		

1939(昭和14)年	1月	東館が増築された。
1943(昭和18)年	4月	北区堂島浜通から福島区堂島浜通に地名変更。
1945(昭和20)年	6月	看護婦養成所を厚生女子部と改称した。
1947(昭和22)年	10月	政令第204号により大阪帝国大学は大阪大学に改められた。
1949(昭和24)年	5月	国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属医院に改められた。
1951(昭和26)年	4月	大阪大学医学部附属医院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。
1952(昭和27)年	4月	大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校及び大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。
1953(昭和28)年	8月	大阪大学歯学部附属医院の設置(昭和26年3月)に伴い、医学部附属医院の診療科から歯科が分離された。
1963(昭和38)年	4月	大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護学校と改称した。
1964(昭和39)年	3月	本院改築第1期工事が完成した。
1965(昭和40)年	4月	大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置された。

1966(昭和41)年	4月	大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科が設置された。
	12月	本院改築第2期工事が完成した。
1968(昭和43)年	3月	大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。
	4月	大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。
1969(昭和44)年	4月	大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エックス線技師学校が廃止された。
1970(昭和45)年	10月	本院改築第3期工事が完成した。
1971(昭和46)年	3月	給食厨房棟が完成した。
1973(昭和48)年	8月	本院改築第4期工事が完成した。
		
1989(平成元)年	3月	吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。

1993(平成5)年	9月	中之島キャンパス(大阪市福島区)から吹田キャンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。
		

1993(平成5)年	10月	大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。
1994(平成6)年	11月	特定機能病院に承認された。
1995(平成7)年	1月	1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。
	3月	ボジトロン核医学診断システム棟が完成した。
1996(平成8)年	3月	大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。

1997(平成9)年	3月	大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。
	7月	心臓移植実施施設に認定された。
1998(平成10)年	4月	肺移植実施施設に認定された。
1999(平成11)年	2月	脾臓移植実施施設に認定された。
	12月	移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。
		小腸移植実施施設に認定された。
		病棟屋上にヘリポートが完成した。
2000(平成12)年	4月	診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。
	5月	肝臓移植実施施設に認定された。
2001(平成13)年	1月	日本医療機能評価機構から認定を受けた。
2004(平成16)年	4月	国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。
2006(平成18)年	1月	日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
2008(平成20)年	1月	大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。



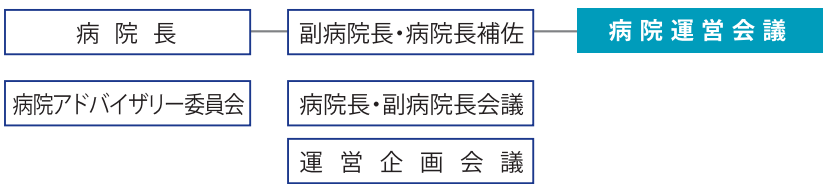
2009(平成21)年	4月	地域がん診療連携拠点病院に認定された。
2011(平成23)年	1月	日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
2012(平成24)年	6月	移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移植を実施した。
2015(平成27)年	3月	質の高い倫理審査委員会設置病院として認定された。
	8月	臨床研究中核病院に認定された。
	9月	オンコロジーセンター棟が完成した。
		臨床検査のISO認定を受けた。
2016(平成28)年	1月	日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。
	3月	外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)に認証された。
	9月	ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。

機構／職種別職員数／職員

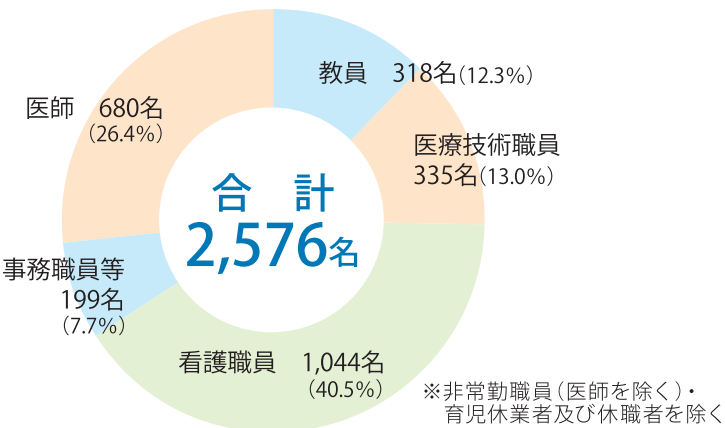
Organization Chart／Number of Staff／Faculty and Administrative Officers

(2017年5月1日現在)

[機構]



[職種別職員数]



[職員]

管理者

病 院 長	教授	野 口 眞三郎	病院長補佐 (小児医療・女性支援担当)	教授	大 藺 惠 一
副 病 院 長 (人事・医療安全・地域医療担当)	教授	樂 木 宏 実	(研究・中央診療施設担当)	教授	小 川 和 彦
(財務・再開発担当)	教授	木 村 正	(教育・臨床研究中核病院担当)	教授	竹 原 徹 郎
(診療体制・がん診療担当)	教授	土 岐 祐一郎	(広報・中期計画・目標担当)	教授	野々村 祝 夫
(ホスピタリティ・アメニティ担当)	看護部長	越 村 利 恵	(外部評価・医療情報担当)	教授	松 村 泰 志
			(経営・組織改革担当)	事務部長	延 原 寿 男

診療部門

●内科系科	部門長(教授)	下 村 伊一郎	●外科系科	部門長(教授)	奥 村 明之進
循環器内科	科長(教授)	坂 田 泰 史	心臓血管外科	科長(教授)	澤 芳 樹
腎臓内科	科長(教授)	猪 阪 善 隆	呼吸器外科	科長(教授)	奥 村 明之進
消化器内科	科長(教授)	竹 原 徹 郎	消化器外科(下部消化管、肝、胆)	科長(教授)	森 正 樹
糖尿病・内分泌・代謝内科	科長(教授)	下 村 伊一郎	消化器外科(上部消化管、膵)	科長(教授)	土 岐 祐一郎
呼吸器内科	科長(講師)	木 田 博	乳腺・内分泌外科	科長(教授)	野 口 眞三郎
免疫内科	科長(教授)	熊ノ郷 淳	小児外科	科長(教授)	奥 山 宏 臣
血液・腫瘍内科	科長(教授)	金 倉 讓	病理診断科	科長(教授)	森 井 英 一
老年・高血圧内科	科長(教授)	樂 木 宏 実			
漢方内科	科長(特任教授(常勤))	萩 原 圭 祐			
総合診療科	科長(教授)	樂 木 宏 実			



●感覚・皮膚・運動系科	部門長(教授)	細 川 亙
眼科	科長(教授)	西 田 幸 二
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長(教授)	猪 原 秀 典
整形外科	科長(教授)	吉 川 秀 樹
皮膚科	科長(教授)	片 山 一 朗
形成外科	科長(教授)	細 川 亙
リハビリテーション科	科長(教授)	吉 川 秀 樹

●脳神経精神科	部門長(教授)	藤 野 裕 士
神経内科・脳卒中科	科長(教授)	望 月 秀 樹
神経科・精神科	科長(教授)	池 田 学
脳神経外科	科長(教授)	貴 島 晴 彦
麻酔科	科長(教授)	藤 野 裕 士

●女性・母子・泌尿生殖科	部門長(教授)	木 村 正
産科	科長(教授)	木 村 正
婦人科	科長(教授)	木 村 正
小児科	科長(教授)	大 藺 惠 一
泌尿器科	科長(教授)	野々村 祝 夫

●放 射 線 科	部門長(教授)	富 山 憲 幸
放射線診断・IVR科	科長(教授)	富 山 憲 幸
放射線治療科	科長(教授)	小 川 和 彦
核医学診療科	科長(教授)	畑 澤 順

中央診療施設

[管理部門]

●材料部	部長(病院教授)	高 階 雅 紀
●病理部	部長(教授)	森 井 英 一
●輸血部	部長(病院教授)	富 山 佳 昭
●医療情報部	部長(教授)	松 村 泰 志
●感染制御部	部長(教授)	朝 野 和 典
●中央クオリティマネジメント部	部長(教授)	中 島 和 江
●臨床工学部	部長(病院教授)	高 階 雅 紀
●保健医療福祉ネットワーク部	部長(教授)	樂 木 宏 実
●移植医療部	部長(教授)	奥 村 明之進
●栄養マネジメント部	部長(教授)	下 村 伊一郎
●サプライセンター	センター長(病院教授)	高 階 雅 紀
●卒後教育開発センター	センター長(教授)	和 佐 勝 史
●看護部キャリア開発センター	センター長	越 村 利 恵
●高難度新規医療技術審査部	部長(教授)	土 岐 祐一郎
●未承認新規医薬品等診療審査部	部長(教授)	樂 木 宏 実

[中央診療部門]

●臨床検査部	部長(病院教授)	日 高 洋 人
●手術部	部長(病院教授)	南 正 人
●放射線部	部長(教授)	富 山 憲 幸
●集中治療部	部長(教授)	藤 野 裕 士
●リハビリテーション部	部長(教授)	吉 川 秀 樹
●総合診療部	部長(教授)	樂 木 宏 実
●血液浄化部	部長(教授)	猪 阪 善 隆
●遺伝子診療部	部長(教授)	望 月 秀 樹
●化学療法部	部長(病院教授)	水 木 満佐央
●放射線治療部	部長(教授)	小 川 和 彦

●総合周産期母子医療センター	センター長(教授)	木 村 正
●高度救命救急センター	センター長(教授)	嶋 津 岳 士
●内視鏡センター	センター長(教授)	土 岐 祐一郎
●超音波検査センター	センター長(教授)	坂 田 泰 史

[連携診療部門]

●脳卒中センター	センター長(教授)	望 月 秀 樹
●前立腺センター	センター長(教授)	野々村 祝 夫
●睡眠医療センター	センター長(教授)	池 田 学
●疼痛医療センター	センター長(教授)	藤 野 裕 士
●生殖医療センター	センター長(教授)	野々村 祝 夫
●ハートセンター	センター長(教授)	坂 田 泰 史
●小児医療センター	センター長(教授)	奥 山 宏 臣
●オンコロジーセンター	センター長(教授)	土 岐 祐一郎
●呼吸器センター	センター長(教授)	奥 村 明之進
●てんかんセンター	センター長(教授)	大 藺 惠 一
●消化器センター	センター長(教授)	森 正 樹
●IVRセンター	センター長(講師)	大須賀 慶 悟
●胎児診断治療センター	センター長(教授)	奥 山 宏 臣
●難病医療推進センター	センター長(教授)	大 藺 惠 一
●子どものこころの診療センター	センター長(教授)	大 藺 惠 一

薬 剤 部	部長(病院教授)	三 輪 芳 弘
	副部長	門 脇 裕 子
	副部長	勝 浦 正 人

看 護 部	部長	越 村 利 恵
	副部長	谷 浦 葉 子
	副部長	岩 崎 朋 之
	副部長	佃 順 子
	副部長	鍋 谷 佳 子

医 療 技 術 部	部長	吉 田 靖
	副部長	前 田 育 宏
	副部長	藤 埜 浩 一
	副部長	橋 田 剛 一

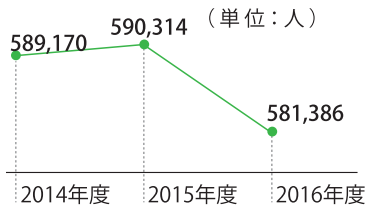
未 来 医 療 開 発 部	部長(教授)	西 田 幸 二
	副部長(教授)	朝 野 和 典
	副部長(教授)	松 村 泰 志
●未来医療センター	センター長(病院教授)	名 井 陽
●臨床研究センター	センター長(准教授)	山 本 洋 一
●データセンター	センター長(教授)	西 田 幸 二
●国際医療センター	センター長(教授)	中 田 研

事 務 部	部長	延 原 寿 男
●総務課	課長	久 保 公四郎
災害対策室	室長	久 保 公四郎
●管理課	課長	安 岡 浩 憲
●教育研究支援課	課長	新 美 博 規
●医事課	課長	西 川 憲 司
患者サービス推進室	室長	西 川 憲 司
●再開発企画整備室	室長	安 岡 浩 憲

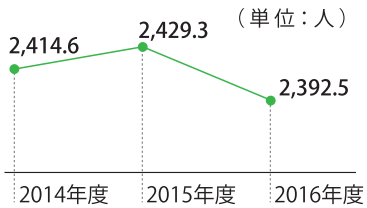
[診療科別外来患者数]

区 分	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)	平均通院日数 (単位:日)
■総合診療科	5,477	22.5	9.9
■循環器内科	28,211	116.1	44.9
■腎臓内科	15,105	62.2	89.4
■消化器内科	45,343	186.6	47.8
■内分泌・代謝内科	41,531	170.9	96.1
■呼吸器内科	13,246	54.5	35.7
■免疫・アレルギー内科	19,655	80.9	35.5
■血液・腫瘍内科	19,447	80.0	71.2
■老年・高血圧内科	14,874	61.2	50.8
■心臓血管外科	11,043	45.4	29.7
■呼吸器外科	5,916	24.3	30.7
■消化器外科	29,349	120.8	37.8
■乳腺・内分泌外科	17,195	70.8	35.2
■小児外科	5,350	22.0	17.7
■眼科	53,259	219.2	14.4
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	27,440	112.9	17.1
■整形外科	31,597	130.0	20.6
■皮膚科	24,767	101.9	18.5
■形成外科	8,117	33.4	17.3
■神経内科・脳卒中科	20,095	82.7	30.1
■神経科・精神科	23,041	94.8	38.6
■脳神経外科	13,559	55.8	17.9
■麻酔科	11,987	49.3	33.3
■産科・婦人科	28,036	115.4	14.3
■小児科	24,496	100.8	28.4
■泌尿器科	22,304	91.8	34.2
■放射線診断・IVR科	15,874	65.3	85.8
■放射線治療科			
■核医学診療科			
■高度救命救急センター	929	3.8	16.6
■歯科	4,143	17.0	4.0
合 計	581,386	2,392.5	26.3

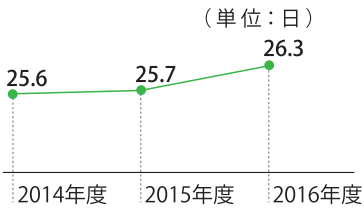
[外来患者延数の推移]



[一日平均患者数の推移]



[平均通院日数の推移]



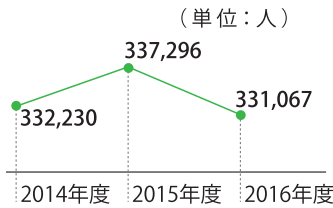
[病棟フロア別入院患者数]

西病棟						東病棟					
階	診療科	入院患者 延数 (単位:人)	1日平均 入院患者数 (単位:人)	平均在院 日数 (単位:日)	病 床 稼働率 (単位:%)	階	診療科	入院患者 延数 (単位:人)	1日平均 入院患者数 (単位:人)	平均在院 日数 (単位:日)	病 床 稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	14,640	40.1	16.1	81.9	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	16,259	44.5	18.9	87.3
12	■女性・母子・泌尿生殖科 (泌尿器科)	16,816	46.1	19.8	96.0	12	■内科系科 (内分泌・代謝内科/ 免疫・アレルギー内科)	14,655	40.2	18.7	75.8
11	■外科系科 (消化器外科)	16,547	45.3	20.5	90.7	11	■内科系科 (消化器内科)	16,499	45.2	14.0	90.4
10	■外科系科 (消化器外科/共通)	17,474	47.9	18.8	90.3	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	14,867	40.7	57.3	78.3
9	■外科系科 (心臓血管外科)	17,498	47.9	17.7	97.8	9	■内科系科 (循環器内科)	16,720	45.8	13.5	91.6
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	14,571	39.9	11.8	79.8	8	■脳神経精神科 (神経内科・脳卒中科) ■内科系科 (老年・高血圧内科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科)	15,405	42.2	19.7	84.4
7	■感覚・皮膚・運動系科 (眼科)	17,958	49.2	9.8	92.8	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	15,933	43.7	16.6	89.1
6	■外科系科 (小児外科/外科共通)	11,904	32.6	10.3	81.5	6	■女性・母子・泌尿生殖科 (小児科)	14,680	40.2	11.7	83.8
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	17,373	47.6	23.6	89.8	5	■女性・母子・泌尿生殖科 (産婦人科)	14,781	40.5	11.1	81.0
4	■集中治療部	2,775	7.6	14.6	76.0	4	■集中治療部	4,190	11.5	14.0	76.5
3	■総合周産期 母子医療センター	11,536	31.6	6.1	83.2	3	■内科系科 (腎臓内科/内科共通) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	10,780	29.5	11.9	68.7
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	10,897	29.9	32.8	57.4
						1	■高度救命 救急センター	6,179	16.9	7.1	84.6

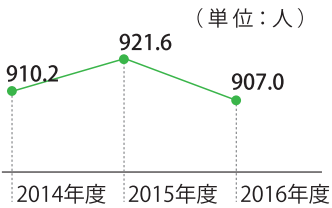
※フェーズⅠ病床 入院患者延数 130人

合 計	入院患者延数 (単位:人)	331,067	一日平均入院患者数 (単位:人)	907.0	平均在院日数 (単位:日)	15.0	病床稼働率 (単位:%)	83.5
-----	------------------	---------	---------------------	-------	------------------	------	-----------------	------

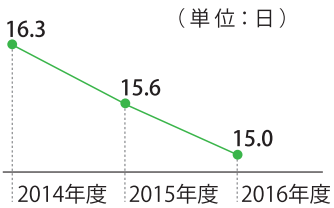
[入院患者延数の推移]



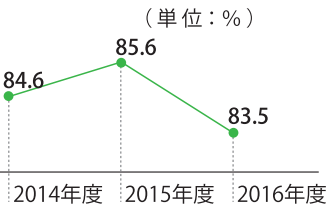
[一日平均入院患者数の推移]



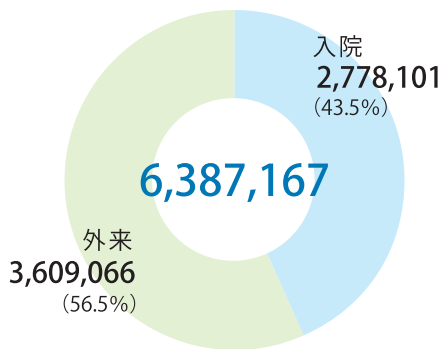
[平均在院日数の推移]



[病床稼働率の推移]



[臨床検査件数] (単位：件)



[手術件数] (単位：件)

■心臓血管外科	1,039
■呼吸器外科	311
■消化器外科	758
■乳腺・内分泌外科	347
■小児外科	487
■眼科	3,364
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	699
■整形外科	764
■皮膚科	238
■形成外科	477
■神経科・精神科	186
■脳神経外科	420
■麻酔科	79
■産科・婦人科	816
■泌尿器科	569
■高度救命救急センター	66
■骨髄採取 (血液・腫瘍内科、小児科)	2
■その他 (循環器内科、消化器内科、小児科、放射線科)	78
合 計	10,700

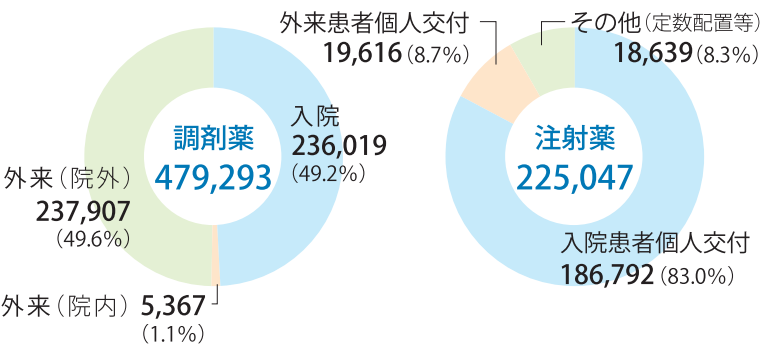
[画像検査患者数] (単位：人)

区 分	入院患者数	外来患者数	合 計
■一般撮影	60,628	53,539	114,167
■特殊検査	20,988	34,308	55,296
■核医学検査	1,435	4,399	5,834
合 計	83,051	92,246	175,297

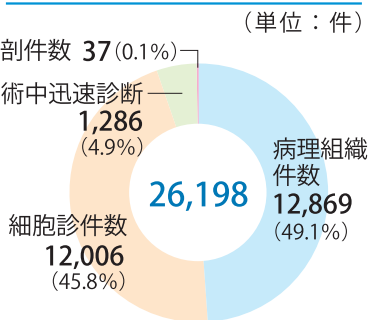
[輸血検査件数] (単位：件)

■血液検査 ABO,Rh(D)	20,466
■その他血液型	49
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	15,649
■交差適合試験	14,845
■抗血小板抗体検査	374
■寒冷凝集反応	126
■直接クームス試験	273
■間接クームス試験	224
合 計	52,006

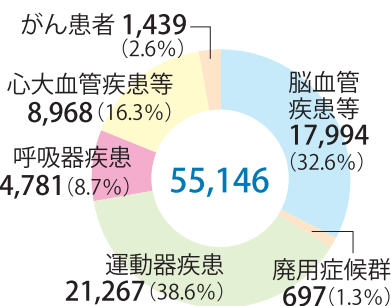
[処方枚数] (単位：枚)



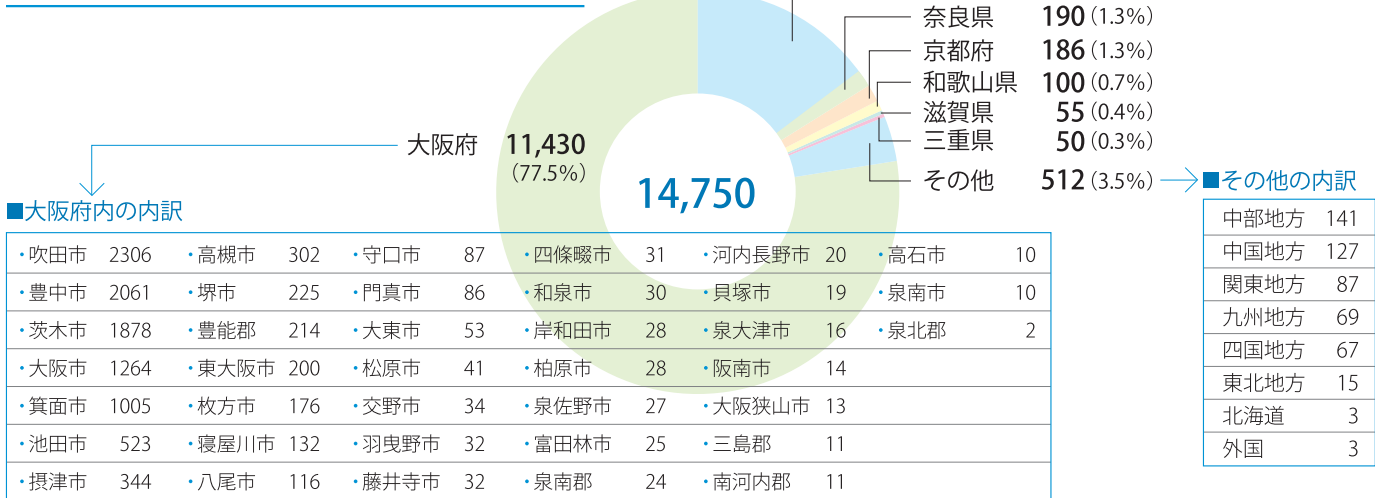
[病理業務件数] (単位：件)



[リハビリテーション実施単位数]



[地域別入院患者数] (単位：人)

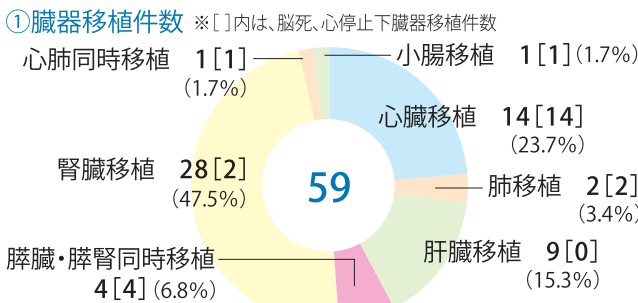


[治験件数] (単位：件)

	総件数	総症例数
■医薬品	新規 70	426
	継続 184	703
	小計 254	1,129
■医療機器	新規 10	93
	継続 15	70
	小計 25	163
総 計	*279	*1,292

※医師主導治験25件315症例を含む

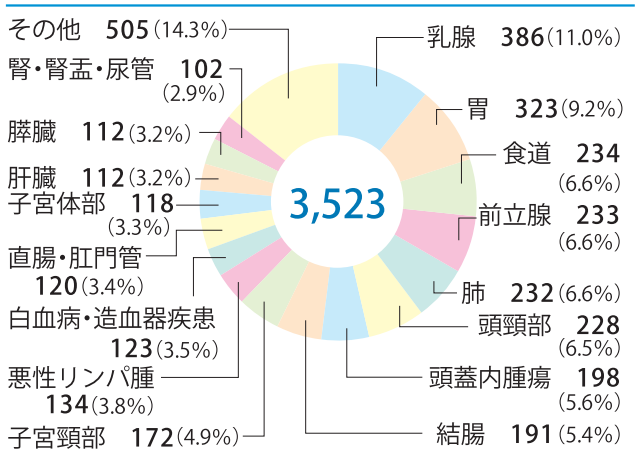
[移植件数] (単位：件)



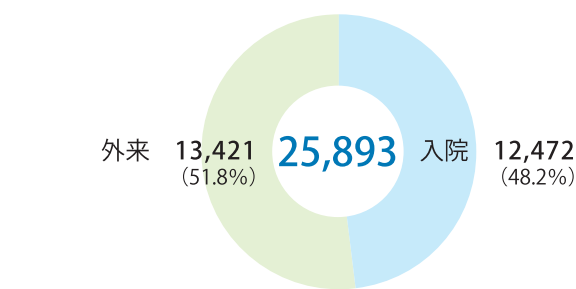
②造血幹細胞移植件数

区 分	成人	小児
■血縁者間移植	7	3
■非血縁者間移植	17	3
・骨髄バンク	15	1
・臍帯血	2	2
■自家移植	10	0
合 計	34	6

[院内がん登録件数] ※2015年診断分 (単位：件)



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位：件)



[ドクターヘリ出動件数] 147件

[分娩件数] 548件

[血液浄化療法施行件数] 3,822件

医療機関の承認・指定状況等

Legal Authorization of Medical Services

[医療機関の承認]

●臨床修練指定病院	●大阪府肝炎専門医療機関
●医療法第7条第1項による開設許可（承認）	●覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関
●健康保健法による（特定承認）保険医療機関	●障害者自立支援法による更生医療
●生活保護法による医療機関	●障害者自立支援法による育成医療
●労働者災害補償保険法による医療機関	●障害者自立支援法による精神通院
●原爆医療法による一般医療法	●入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
●原爆医療法による認定医療法	●大阪府総合周産期母子医療センター指定
●母子保健法による妊婦乳児健康診査	●医療観察法による指定通院
●母子保健法による養育医療	●大阪府肝疾患診療連携拠点病院
●戦傷病患者特別援護法による厚生医療	●地域がん診療連携拠点病院
●特定機能病院の名称の使用承認	●児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関
●エイズ治療拠点病院	●難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
●大阪府災害拠点病院	●臨床教授等指定病院
●感染症予防法による指定届出機関（基幹定点）	●医療法上の臨床研究中核病院
●大阪府三次救急医療機関	

※太字は大阪府による承認指定

[先進医療]

- 前眼部三次元画像解析
- パクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る。）の併用療法
上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん
- 経力テータル大動脈弁植込み術　弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症（慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る。）
- ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法
閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病（血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。）
- 腹腔鏡下広汎子宮全摘術
- 上肢カッティングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術　骨端線障害若しくは先天奇形に起因する上肢骨（長管骨に限る。以下この号において同じ。）の変形又は上肢骨の変形治癒骨折（一上肢に二以上の骨変形を有する者に係るものを除く。）
- FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断
不明熱（画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。）
- コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法　半月板損傷（関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。）
- 周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法　非小細胞肺癌（CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。）
- 11C標識メチオニンをを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断　頭頸部腫瘍
（原発性若しくは転移性脳腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。）又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。）であり、かつ、再発が疑われるものに限る。）
- 角膜ジストロフィーの遺伝子解析
- 内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術
根治切除が可能な胃がん（ステージⅠ又はⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除術の対象とならないと判断されたものに限る。）
- 自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療
胸髄損傷（損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺（米国脊髄損傷協会によるAISがAである患者に係るものに限る。）を呈するものに限る。）
- リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法　特発性ネフローゼ症候群
（当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難病性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。）
- 放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法
初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫（病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。）
- 11C標識メチオニンをを用いたポジトロン断層撮影による診断　初発の神経膠腫が疑われるもの（生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。）
- 経胎盤の抗不整脈薬投与療法　胎児頻脈性不整脈（胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。）
- 術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツマブ静脈内投与の併用療法
切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん（HER2が陽性のものに限る。）
- テモゾロミド用量強化療法　膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）

経理状況／未来医療の推進

Finance／Translational Research

[収入と支出]（2016年度）※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入（単位：千円）		支出（単位：千円）	
区　分	金　額	区　分	金　額
運営費交付金	3,778,161	人件費	14,583,563
附属病院収入	37,253,003	医療費	17,138,736
その他収入	549,644	債務償還経費	3,051,581
		業務費	6,806,928
合　計	41,580,808	合　計	41,580,808

[受託研究等外部資金及び施設費]

外部資金受入額（単位：千円）		
区 分		金 額
受託研究等収入	受託研究	561,146
	治験	797,719
	共同研究	107,508
受託事業等収入	受託実習生	3,082
	病院研修生	2,684
	その他	7,857
	共同事業	19,800
寄付金収入		58,731
補助金等収入		1,056,684
合 計		2,615,211

施設費（単位：千円）		
区 分		金 額
設備整備	集中治療支援システム	100,000
	超音波診断装置	80,000
	手術支援システム	246,881
	放射線治療システム	526,800
	総合周産期母子医療支援システム	149,891
	感染症免疫検査システム	151,200
	内視鏡検査システム	127,532
	血管造影撮影装置	270,000
合 計		1,652,304

トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ（TR）を実践推進していきます。

- TRの実施件数（2016年度）
- 新規TR実施件数：21件
- 臨床研究新規許可件数：5件

診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療と教育のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

| インバウンド基盤整備

- 海外からの患者受入れ体制の整備
- 海外からの医療研修受入れの推進
- 関西での国際医療ネットワーク形成

| アウトバウンド

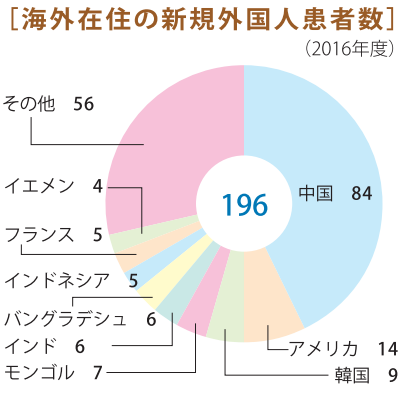
- 世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- 国際共同治験・共同研究の推進
- 日本の医療システムの海外進出

| 国際医療教育・研究

- 大阪大学内外の研究・教育施設との協力による国際医療教育・研究の推進

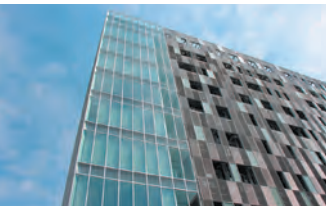
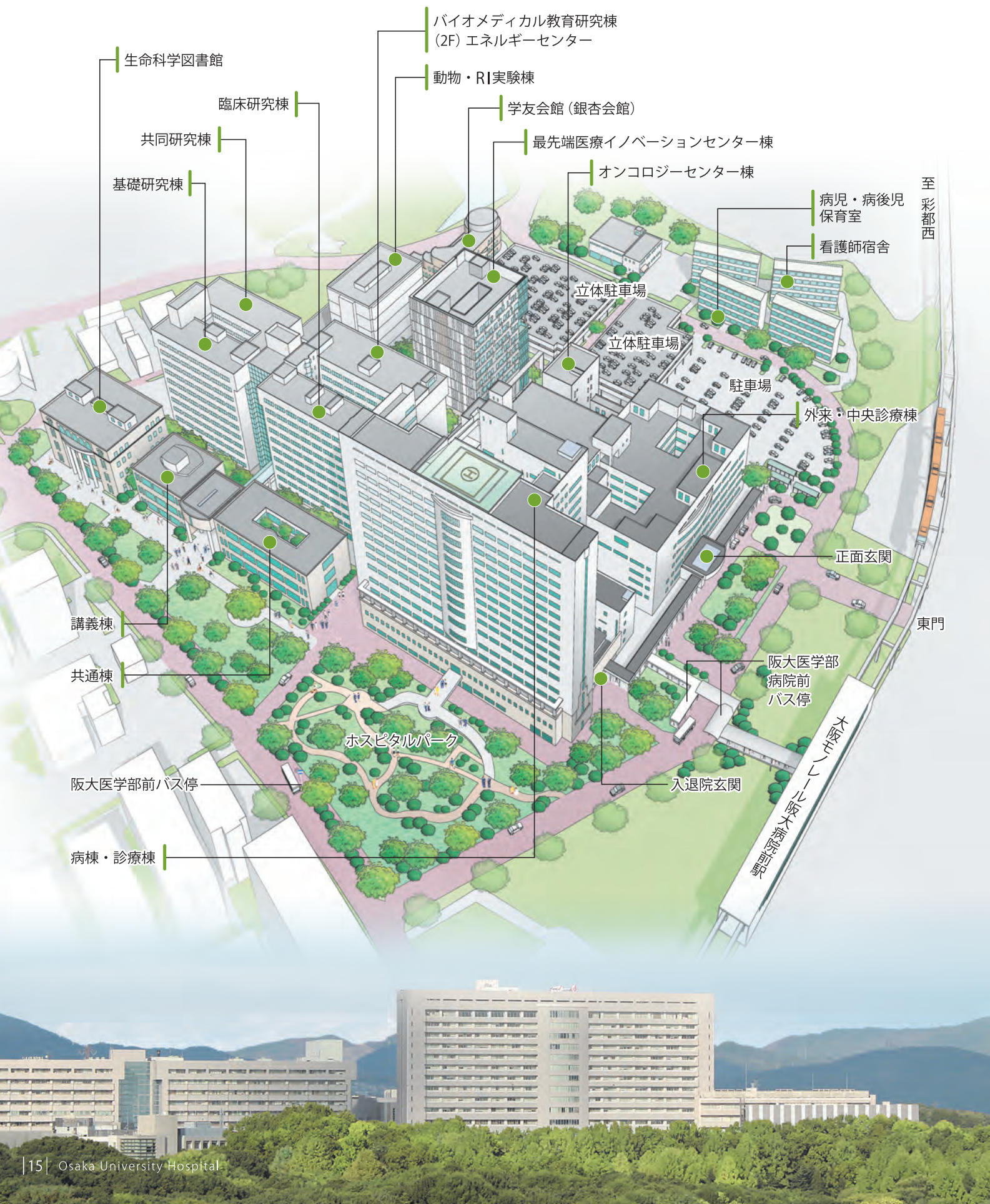
| 国際機能評価

- 国際病院評価機構（JCI）受審に向けた準備。
- 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）を受審し、認証された。（2016年3月）
- ジャパン　インターナショナル　ホスピタルズ（JIH）に推奨された。（2016年9月）



構内建物配置図／階別配置図・病床数

Buildings Layout／Building Directory and Number of Beds



[病棟・診療棟 (病床数 1,086床) ※フェーズⅠ病床(10床)を含む]

西病棟			東病棟	
14階	レストラン、休憩所、会議室、中央クオリティマネジメント部			
13階	脳神経外科、神経内科・脳卒中科	49床	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	51床
12階	泌尿器科	48床	糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科	53床
11階	[消化器センター] 消化器外科	50床	[消化器センター] 消化器内科	50床
10階	[消化器センター] 消化器外科、共通	53床	血液・腫瘍内科	50床
9階	[ハートセンター] 心血管外科、CVCU	49床	[ハートセンター] 循環器内科、CCU	50床
8階	乳腺・内分泌外科、皮膚科、形成外科	50床	神経内科・脳卒中科、老年・高血圧内科、皮膚科	50床
7階	眼科	53床	[呼吸器センター] 呼吸器内科、呼吸器外科	49床
6階	[小児医療センター] 小児外科、心血管外科、整形外科、外科共通	40床	[小児医療センター] 小児科	48床
5階	整形外科	51床	産科・婦人科	50床
4階	集中治療部 (ICU)	9床	集中治療部 (ICU)	20床
3階	[総合周産期母子医療センター] 周産期病床、MFICU、NICU、GCU	38床	腎臓内科、放射線科 (RI病室)、麻酔科、内科共通 心血管外科、高度救命救急センターバックベッド	43床
2階	看護部、血液浄化部		神経科・精神科	52床
1階	リハビリテーション部、郵便局、ローソン、食堂 理容室、美容室、専門書店等		高度救命救急センター 医療情報部、入退院センター、守衛室、防災センター	20床
B1階	栄養管理室、厨房、霊安室		薬剤部、医事課事務室	

[外来・中央診療棟]

	中央診療施設等	外 来	その他
4階	手術部、集中治療部、 移植医療部、総合診療部、 感染制御部、 卒後教育開発センター、 看護部キャリア開発センター	フェーズⅠ病床 10床	ボランティア室、 院内学級職員室、 シミュレーション室、 医事課事務室
3階	材料部、病理部、輸血部、 臨床工学部、 前立腺センター、 麻酔科術前外来	泌尿器科、産科・婦人科、 神経科・精神科、外科、 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、 皮膚科、形成外科	患者図書コーナー、相談室、 治験コーナー・臨床研究相談窓口
2階	臨床検査部、 内視鏡センター	内科西、内科東、 糖尿病ケア・看護、麻酔科、 小児科、小児外科、 脳神経外科	授乳室
1階	放射線部、 保健医療福祉ネットワーク部、 薬剤部	眼科、整形外科、 リハビリテーション科、 総合診療科、漢方、 補完医療、感染制御、 セカンドオピニオン	総合案内、外来受付カウンター、 予約変更センター、ATM、 診断書等受付窓口、 院外処方せんFAX送信コーナー、 患者相談室、栄養相談室、 相談室、医事課事務室、 コインロッカー
B1階	放射線部、サプライセンター、 遺伝子診療部、放射線治療部	放射線科、緩和ケア	歯科治療室、中央病歴室

[医学部・同附属病院共通棟]

3階	医学部長室、病院長室、事務部長室 会議室 等
2階	病院 総務課事務室 病院 管理課事務室
1階	病院 管理課事務室 医学部 事務室

[オンコロジーセンター棟]

5階	がん相談部門 薬剤部 (オンコロジーセンター室)
4階	がん相談部門 薬剤部 (オンコロジーセンター室)
3階	化学療法部門
2階	化学療法部門
1階	受付 診察部門 採血・検査部門
L階	スタッフエリア 設備部門

[最先端医療イノベーションセンター棟]

4階	未来医療開発部 病院 教育研究支援課事務室
----	--------------------------

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の研究拠点(地上9階・地下1階建て)

2016年度(2016年4月～2017年3月)の動き

Topics

Topics 1

「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」に推奨されました。

→ 訪日される外国人患者さんも安心して受診していただけます。

2016年9月21日、本院は「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(Japan International Hospitals, JIH)」に推奨されました。「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」は、日本の医療機関に海外からの渡航受診の受入れを促進するために、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN (MEJ) と日本政府が協調して、渡航受診者の受入れ実績のある病院として海外へ発信するための推奨制度であり、本院は日本で最初に推奨された4つの国立大学附属病院のうちのひとつです。初回の推奨では関西圏で唯一の施設となりました。渡航受診実績と多言語に対応した受入れ体制、高度な医療提供などが評価されており、訪日される外国人患者さんも安心して受診していただけます。



本院の国際医療センターは2013年の設立以来、医療の国際化に積極的に取り組んでいます。2016年3月15日には、多言語による診療案内や異文化・宗教にも配慮した対応などが格段に充実していると高く評価され、国立大学病院で初めて「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」に認証されました。

本院では在留外国人や日本の医療を求めて来日される外国人の患者さんに言葉や文化の障壁を感じず、日本の標準医療や先進医療を安心して受けていただけるよう今後も邁進いたします。



【多言語版入院案内】
(タイ語版)
【診療風景】

Topics 2

地域医療連携ネットワークシステム「阪大病院ネット」が稼働しました。

→ 診療情報の共有により、安全で質の高い地域医療連携をサポートします。

2017年3月1日より「阪大病院ネット」の運用を開始しました。阪大病院ネットは、合意いただいた患者さんの本院における電子化された診療情報を連携医療機関で閲覧できるシステムです。本院の医療情報部では、診療情報が文書ごとに保存されるシステムを活用して、多様な診療情報の中から必要な情報だけを選択して閲覧制御できるシステムを確立しました。このシステムにより、連携医療機関の先生方の診療に本院の診療情報を役立てていただくことができます。

また本院から他の連携医療機関へ紹介し、そこで撮影されたCT、MRI画像などを、本院の院内PACSに取り込む運用も行っており、2016年度は計30,321件の画像転送が行われました。電子紹介状システムを使って、一部のクリニックで記載された放射線レポートを本院の電子カルテに取り込む運用もしており、2016年度はCT 110件、MRI 24件、PET 317件のレポートの取り込みを実施しました。

本院は今後も「阪大病院ネット」の運用実績を積み重ね、地域医療のためのより良いインフラを整備、確立してまいります。



【阪大病院ネットの概要】



【エントランスホール】



【オープンテラス】



【患者図書コーナー】



【正面玄関】



【病棟・診療棟外観】

Osaka University Hospital through Photographs

写真で見る大阪大学医学部附属病院



【特定集中治療室(高機能ICU)】



【血液浄化部】



【ドクターヘリ】



【小児医療センター】



【ホスピタルパーク】



【循環器専用Angio-CT】



【入退院センター】



【手術支援ロボット ダヴィンチ】



【高度救命救急センター 血管造影室】



【オンコロジーセンター 抗がん剤調製室】



【治療コーナー・臨床研究相談窓口】